



広大な大陸のいたるところで、
さまざまな生き物が、人のそばにいる。

Wildlife Wonder

船の音にひかれて、好奇心いっぱいのイルカたちがやってきた。
彼らとのつき合い方の厳格なルールが守られているこの国では、ごくふつうの光景だ。
ここでは、さまざまな生き物たちと人との距離が、驚くほど近い。

Wildlife Wonder

野生動物



カンガルー(エスペランス)



タスマニアン・デビル

コアラ

左上より：ウォンバット エリマキトカゲ ボッサム
右より：カモノハシ ハリモグラ ウラビー

■ Wild Animals

ちょっと足をのばせば、この国にしかない、野性のままだ動物たちに見える。

オーストラリアは、何千万年という長い間孤立した大陸であったため、約150種の有袋類など、世界の中でもとてもユニークな生き物が暮らす国でもある。卵を産み、母乳で育てるカモノハシは、東海岸とタスマニアなどに生息。ケアンズなどからのツアーのほか、各都市の動物園でも見ることができる。



ザトウクジラ(ハービー・ベイ)

■ Whale Watching

船上にあふれる歓喜の声。地球最大の生き物との出会いは、人生観も変えてしまう。

6~10月がシーズン。東海岸では、毎年1,500頭以上のクジラがやって来るブリスベン沖のハービー・ベイやモートン島、シドニー北のポート・ステューブンス、西部ではパース近郊のフリーマントル、南西部のアルバニーなどからウォッチングツアーが出ている。

野生動物の島では、息をひそめるのは私たちの方です。

カンガルー島は、島全体が野生の鳴き声や匂い、温かさにあふれています。自然の声に耳を澄ませながら島を巡ると、茂みの中で、ワラビーの気配に気づきます。ユーカリの香りが濃い森で、コアラのまなざしを感じます。真っ白な砂浜で、アシカの寝息が聞こえてきます。私たちは、彼らの暮らしをそっと見守るだけです。いつ見てもホントにかわいらしい。ほかにも、カモノハシ、アザラシ、ペンギンなどなど、驚くほどたくさんの動物たちが、一年中私たちのそばにいます。さあ、野生動物の島へ、どうぞ。



クレイグウィッカム & ジャネットウィッカム
カンガルー島
ネイチャー・ガイド

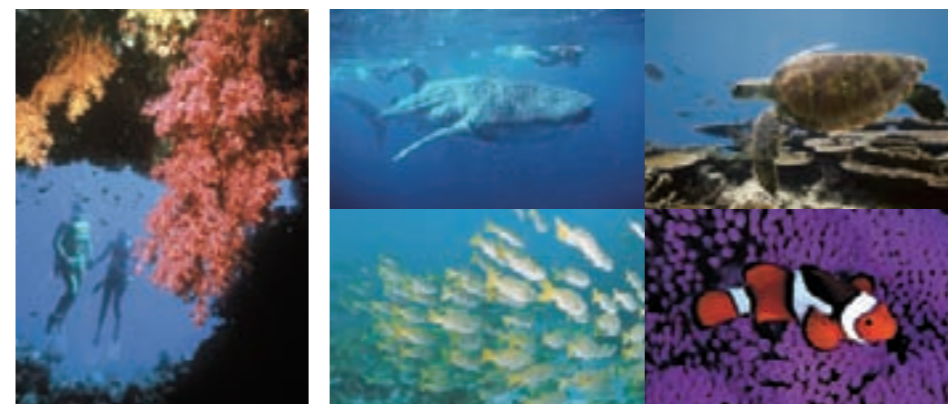


バンドウイルカ(エアー半島)

■ Play with Dolphins

ビーチに人の気配を感じると、その無邪気な好奇心のままに、何頭ものイルカが姿を現した。

シャーク湾のモンキー・マイアや、パースの南にあるバンバリー、ブリスベン沖のモートン島などでは、ビーチまでイルカがやって来て、餌づけもできる。また、パース近郊のロッキンハム、メルボルン南のソレント、アデレード近郊のグレネルグなどから出ている、イルカと泳ぐツアーもある。



グレート・バリア・リーフ

左上：ジンベイザメ 左下：ゼブラフィッシュ 右上：アオウミガメ 右下：カクレクマノミ

■ Marine Animals

陸と海が育む壮大な生態系が、生き物たちの楽園をつくり上げている。

世界最大の珊瑚礁群グレート・バリア・リーフでは、約400種の珊瑚のほか、ナポレオンフィッシュ、オニイトマキエイ、ネムリブカなど、1,500種にもおよぶ多種多様な魚に出会える。また、西部のシャーク湾には世界最大のジュゴンのコロニーがある。

■ Wild Birds

世界最古の大陸が育てた、この国だけの多様な鳥たち。

多種多様な環境に、約770種が生息し、その多くが固有種。約280種がいるノーザン・テリトリーのカカドゥ国立公園、自然の中で暮らす世界最小のリトルペンギンに出会えるメルボルン南のフィリップ島やタスマニアなど、さまざまな鳥たちが観察できる。



上：アカクサインコ 下：エミュー

リトルペンギン



素材の香りが、スパイスになる。
ありのままの自然のチカラに触れた。

Food & Wine

ほのかに漂うぶどうの香りに包まれながら、
みずみずしい野菜を味わい、ジューシーなビーフを堪能すると、
口いっぱい、広大な大地が育てた素材本来のチカラが広がってくる。
ここでは、ありのままの自然の味が、いちばんのごちそう。

Food & Wine

フード&ワイン



■ Fresh Produce

どこにも真似できない、大地のおいしさを味わえる。

オーストラリアの野菜や果物は、味も香りも色も濃い。それは強い陽射しのもと、大自然の恵みを存分に活かしながら、できるだけ人の手を加えずに育てているため。オーガニックの栽培もさかん。土地が広いので種類も豊富。さまざまな気候があるため、一年中、旬の味を楽しめるのもうれしい。また、きれいな空気の中、自然の牧草だけで飼育されたラムやビーフも絶品。口いっぱいに広がる素材本来の味をかみしめたい。



■ Modern Australian

いま世界でいちばん新しい味を楽しみたい。

広大な大地で育った豊富な食材を使い、世界各国の味を自由にアレンジした料理が、モダン・オーストラリア料理。それは腕のいいシェフたちが、従来の食のジャンルを超え、自由な発想でつくった最高の創作料理。どの都市のレストランでも、気軽に味わえるのがうれしい。



■ Seafood

世界一きれいな海の素材を、世界一フレッシュなまま味わう。

タスマニア北部のバス海峡は、南極から澄みきった風が吹くためきれいで、いつも新鮮な魚介類が獲れる。なかでもロブスターやカキ、アワビなど、獲れたばかりのシーフードはみずみずしさが格別。どの都市でもフレッシュなまま味わえる。しっかり身のしまったプリプリとした食感がたまらなくおいしい。

この素材のみずみずしさは、日本では決して味わえませんね。

オーストラリアは、野菜も果物もシーフードも、ものすごく新鮮で種類も豊富なんです。空気もおいしいですから、バーベキューはいいですよ。すがすがしい大自然の中で、土の香りがする野菜や身のしまったロブスターをそのまま焼いて食べると、とても贅沢で豊かな気持ちになります。お肉もうまいですね。実はここには、日本で手に入らないおいしいワインもたくさんあるんです。街のスーパーで、現地にしかないとびきりフレッシュな食材とワインを買いこんで公園でバーベキュー！なんて素敵ですね。



熊谷喜八
KIYACHI シェフ



シドニー/サーキュラー・キー

■ Dining

最高の味と夜景で、オトナの時間を過ごしたい。

少し贅沢な時間を楽しみたいときは、シドニーのサーキュラー・キーやゴールド・コーストのマリーナ・ミラージュなどのレストランがおすすめ。ライトアップされた街並みが水面に映える姿は印象的。作品のように美しい夜景を味わいながら、最高のディナーが味わえる。



バロッサ・バレー



ハンター・バレー

■ Wine

新大陸の自由な発想が生む、新しいおいしさを。

いちばんの魅力は、産地や醸造家によって多種多様な味を楽しめること。とくに、バロッサ・バレーのシラズやタスマニアのピノ・ノワールなどは世界レベル。数種のぶどうを混ぜあわせたブレンドのクオリティも高い。各地のワイナリーでテイस्टィングをすれば、きっと好みの一本を見つけられる。
※36ページに主なワイン産地が載っています。



アデレードを発って、2日目。
私の中で、この国は、昨日より大きくなっていった。

Journey of Discovery

空も大地も真っ赤に染めて、夕日が沈んでゆく。
低木の間を、カンガルーが疾走する。
あたりは、地平線に囲まれた、広大な大地。
時間が経つほど、この国の大きさが、私にしみ込んでくる。

Journey of Discovery

鉄道の旅&クルーズ



タスマニア



■ A Variety of Cruises

風景やオーギーたちのあたたかさとの出会いながら、心地よく水の上を行く。

オーストラリアでは、いろいろな場所で、さまざまなクルーズが楽しめる。手軽に行ける短時間のものでは、パース郊外のスワン・バレーのワインクルーズや、各都市に食事をしながら夜景を楽しむクルーズなどがある。ゆったり過ごすなら、世界遺産のグレート・バリア・リーフにあるウィットサンデー諸島を何日もかけて巡るクルーズなども、船上での、気さくなオーギーたちとのふれ合いも楽しい。



イエローウォーター・クルーズ

■ Wetland Cruise

生き物の宝庫オーストラリアが体感できる、水上の楽園クルーズ。

オーストラリアで最初に世界遺産に登録されたカカドゥ国立公園にあるイエローウォーターは、250万羽の野鳥が集まる広大な楽園。川面を悠々と泳ぐワニを間近に見ながら水の上を行くと、カササギガンやオウムの大群、水浴びをするコウノトリの一種ジャビルや、悠然と大空を飛ぶウミワシなど、多種多様な大勢の鳥たちに会える。

世界一大きな、海のサンクチュアリに行く。

グレート・バリア・リーフを巡るクルーズは、数時間のものから1週間以上のもので、さまざまです。中でも、ポンツーンと呼ばれる海上に浮かぶデッキを基点にして、シュノーケリングやダイビング、半潜水艦ツアーなどを楽しむものが、手軽で、おすすめです。澄み切った水の下に広がる、円形、星形、三日月形などいろいろな形の珊瑚礁を眺めながら海上を行くと、時にはネムリブカやイルカの群にも出会えます。水平線のかなたまで広がる、広大な珊瑚礁の上に行くクルーズは、それはそれは爽快なものです。



シャロン・リビングストーン
ツアーガイド



©Masaaki Aihara

■ The Ghan

熱帯雨林、広大な大地、低木の大平原。この国の風景は、時間単位では変わらない。

アデレード～ダーウィン間、全長約3,000kmを、2泊3日で走破するザ・ガン鉄道。北部の熱帯雨林、行程の大部分をしめるアウトバックと呼ばれる砂漠地帯、緑の平原など、オーストラリアの大きさが、じっくり時間をかけて味わえる。地平線から昇り、地平線に沈む太陽、闇の中に浮かぶこぼれ落ちそうな星空など、スケールの大きな大自然のドラマも楽しい。車両編成は、コンパートメントなどの客室のほか、ダイニングカーやラウンジカーを備えているので、長旅も快適。



■ Indian Pacific

この国の大きさと、オーギーのあたたかさが、一度に満喫できる。

シドニー～パース間、全長約4,300kmを横断する世界屈指の長距離列車、インディアン・パシフィック鉄道。ブルー・マウンテンズ国立公園の豊かな山並み、カンガルーやエミューなどが目撃できる半砂漠地帯、ひたすら平らな大地が続くナラボー平原などを、3泊4日で駆け抜ける。旅のもう一つの楽しみは、乗客やアテンダントとして旅をともにするオーギーたちとの出会い。何ごとにもオープンな彼らとのふれ合いは、時のたつとも忘れてしまうほど楽しい。



■ Puffing Billy Railway

モクモクと煙を上げながら、豊かな自然の中を行く、オーストラリア最初の蒸気機関車。

パフフィン・ビリー鉄道は、メルボルン近郊のダンデノン山中を走る全長約13kmの蒸気機関車保存鉄道。木製鉄道橋が5ヶ所あり、スリルのある列車の旅が楽しめる。ボランティアによって支えられていて、メルボルン市民にも愛されている。